

大型部品の溶接・機械加工の東海機械製作所

創業者が「東海地区で一番の大型機械部品の工場にする」と思いを込めたのが、東海機械製作所（本社岡崎市藤川町北荒古32、近藤盛仁社長、電話0564・51・2793）の社名の由来。大物部品の溶接、機械加工、組立まで一貫生産できるのが強みで、現在は電子部品実装ロボット向けを主力とする。近藤社長は「DX（デジタルトランスフォーメーション）化や環境対応、働き方改革に取り組み、100年企業を目指して社員と共に成長し続けたい」と意気込む。（三河・田中弥生）

「東海地区で一番」の思い社名に込めて

1947年、近藤社長の祖 岡崎で溶接・修理業の東海溶接工業所を創業した。戦後の戦時中、中国で紡績機械を修理しながら溶接の腕を磨いた正四氏は帰国後、

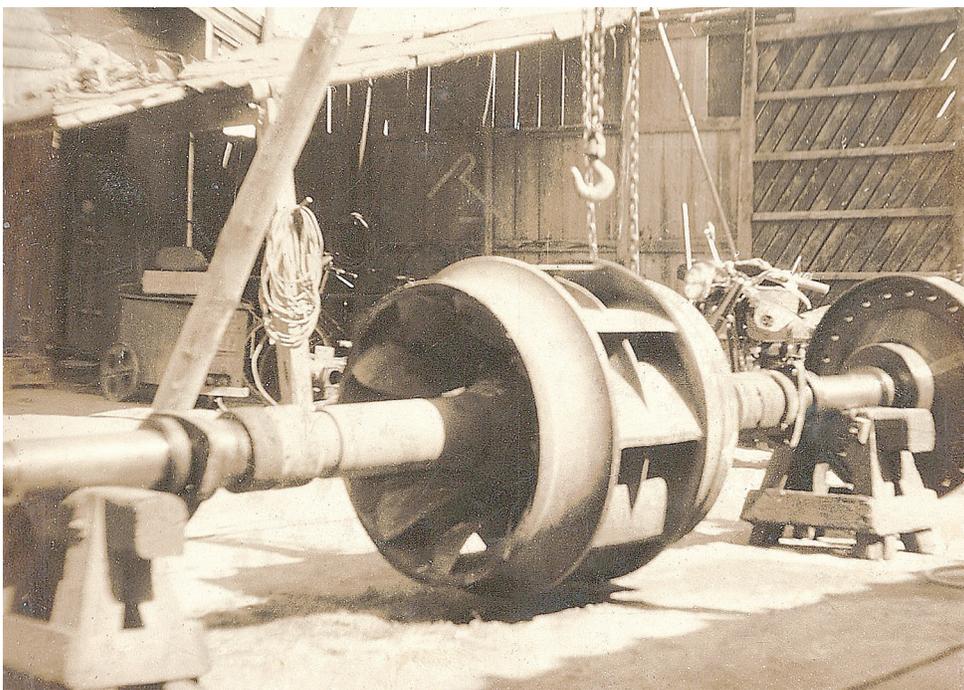
64年に本社工場を現在の藤川町に移転したのが大きなターニングポイントとなった。富士機械製造（現FUJ）から電子部品、トヨタ自動車グループから自動車部品の生産ライン用ベッドの製作を相次ぎ受注。73年のオイルシ

ョックで造船業が低迷したが、機械加工の受注増で窮地を乗り切った。正四氏が病に倒れ、実質30歳で事業承継した2代目の近藤康治氏（現代表）は、新たな業界からの受注や海外進出など思い切った決断で会社を飛躍させた。同社のように幅広い業界の部品・装置において設計から溶接、機械



近藤盛仁社長

高い大物部品の加工技術が評判となり受注を拡大



変幻自在 老舗企業の挑戦

100年企業に向け変化恐れず進化 DX化、外国人人材の活用を推進

加工、組立を一貫生産できる中小企業は少ない。さらにタイと中国の海外拠点を活用して安定した生産体制を確立。自社ブランド「U-tec」を持ち、プレス機や周辺装置、各種装置の設計・組立まで、幅広く対応できるのも強みだ。

「最も強い種や最も賢い種ではなく、最も変化に強い種が生き残る」。近藤社長は「U-tec」の進化論を引用し、変化を恐れず進化する大切さを社員に伝える。今後は100年企業を目指し「DX」「SDGs（持続可能な開発目標）」「働き方改革」を重点課題に掲げる。近年は外国人技能実習生も積極的に採用している。「彼らは必要な人材であり仲間。当社で働くことで技能を身に



IoTツールの活用により精密な組立・検査作業も外国人技能実習生に任せている

